

## 平成24年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

研究費区分	②大都市問題解決拠点形成				
研究代表者所属	人文・社会系	フリガナ 研究代表者氏名	イトウ マコト 伊藤眞	職	教授
研究分担者所属	人文・社会系	研究分担者氏名	何 彬	職	教授
	OU 身体健康科学分野		篠田粧子		教授
	人文・社会系		高桑史子		教授
	人文・社会系		鄭 大均		教授
	中央大学総合政策学部		宮本 勝		教授
	人文・社会系		綾部真雄		教授
	人文・社会系		石田慎一郎		准教授
	OU 日本語教育分野		大久保明男		准教授
	人文・社会系		丹野清人		准教授
	人文・社会系		澤井充生		助教

研究課題名	多文化都市と新相互行為圏（NIZ）の形成 ——新しい「国際移動研究センター」構築にむけた研究——
研究実績の概要（600～800字で記入。図、グラフ等は記載しないこと。）	
<p>① 国際会議：10月20日に、国外（香港・インドネシア・メキシコ）・国内研究者を招へいし、国際会議Human Mobility in Globalizing Asiaを開催した。シンポジウムでは、7名の招へい研究者が教育・経済・宗教・帰化等に関する研究報告をおこなった。</p> <p>② 国際ワークショップ：5月25日に、Metropolitan State Collage of Denver (MSCD) 人類学科の教職員と学生を迎えて国際ワークショップを開催した。午前中はMSCDと首都大学東京との間の学生交流、午後はMSCD教員による研究講演会を開催した。</p> <p>③ 研究集会：6月1日、6月28日、7月14日に研究集会を開催した。6月28日には、本研究に参加するメンバー全員による全体会議を開催し、これまでの調査研究の成果報告を実施した（16名の研究報告に約5時間を要した）。</p> <p>④ ポスター発表：研究成果を、11月30日開催の研究教育交流会において報告した。</p> <p>⑤ 調査研究：研究代表者・分担者は、インタビュー調査とアンケート調査の手法により、日本国内における移民の生活実態に関する調査を実施し、調査結果をとりまとめた。一連の調査研究には、本学の大学院生および学外の専門家が積極的に参加した。</p> <p>⑥ 研究報告書の刊行：2013年3月31日に研究成果報告書（伊藤眞編『多文化都市と新相互行為圏（NIZ）の形成——新しい「国際移動研究センター」構築にむけた研究』全312頁）を200部刊行した。本書は、日英両言語による序、本研究プロジェクトによる23本の研究論文（うち英文論文4本）、活動報告、国際会議要旨集を所収しており、本研究プロジェクトの趣旨説明と成果報告とを一冊にまとめたものである。</p>	

## 平成24年度 傾斜的研究費（全学分）研究報告書

学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・澤井充生、2012年6月27日、「日本社会におけるムスリム——歴史的背景と現状について」（「多文化都市と新相互行為圏（NIZ）の形成」学術シンポジウム「異文化社会で生きること——インドネシア人からみた日本社会」；於：首都大学東京南大沢キャンパス6号館1階101教室）</li> <li>・澤井充生、2012年7月14日、「日本におけるムスリム社会」（Muslim Students Cafe；於：首都大学東京南大沢キャンパス5号館1階142教室）※英語での発表</li> <li>・澤井充生、2012年8月4日、「中国ムスリムの歴史的背景と現状——人類学的視点から」（東京ジャーミイ・トルコ文化センター講話；於：東京ジャーミイ）</li> <li>・澤井充生、2012年12月22日、「ヴェールやあご髭は「未開」の象徴なのか？——中国の少数民族地域における公・共・私について」（東アジア人類学研究会第38回研究会；於：首都大学東京南大沢キャンパス6号館1階104教室）</li> </ul>					
論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・伊藤眞編『多文化都市と新相互行為圏（NIZ）の形成——新しい「国際移動センター」構築にむけた研究』（平成22年度～平成24年度首都大学東京傾斜研究費研究成果報告書）2013年3月。</li> <li>・伊藤眞・石田慎一郎・小林宏至「序論——多文化都市と新相互行為圏の形成」（伊藤眞編所収論文）</li> <li>・Makoto Ito, Shin-ichiro Ishida and Hiroshi Kobayashi, “Introduction: The Multicultural City and Formation of New Interactive Zones (NIZs)”（伊藤眞編所収論文）</li> <li>・何彬「日本留学帰還者と外国人の日本留学——中国の「日本海帰」調査を通して」（伊藤眞編所収論文）</li> <li>・澤井充生「地縁化しないムスリム社会の可能性——日本におけるムスリム社会の歴史的展開と現在」（伊藤眞編所収論文）</li> <li>・高桑史子（共編著）『災害復興と防災に向けて 首都大学東京大学院人文科学研究科社会人類学専攻 2011年度高桑ゼミ論集』2012年9月</li> <li>・高桑史子・篠田粧子「日本に住むスリランカ人のインフォーマルネットワークの構築」（伊藤眞編所収論文）</li> <li>・鄭大均『韓国が「反日」をやめる日は来るのか』新人物往来社、2012年12月（単行本）</li> <li>・鄭大均「鬼怒鳴門も旭天鵬もわれら日本人」『中央公論』2012年8月号</li> <li>・鄭大均「もはや怪物、韓国ナショナリズム」『中央公論』2012年11月号</li> <li>・鄭大均「韓国の『反日』とはなにか」『正論』2012年12月号</li> <li>・鄭大均「二〇〇九年に生まれた一〇五人の日本人」『社会人類学年報』38号、2012年</li> <li>・宮本勝「海外フィリピン人労働者（OFWs）——不法滞在者のライフヒストリー」（伊藤眞編所収論文）</li> </ul>					
科学研究費補助金への応募状況、採択状況					
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 伊藤眞 科学研究費補助金基盤研究B「東南アジアにおける人の移動と帰還移民の再統合に関する社会人類学的研究」、研究代表者、平成22年度～24年度採択。</li> <li>2. 石田慎一郎 科学研究費補助金基盤研究B「ケニアの農村と都市における法の公共性に関する社会人類学的研究」、研究代表者、平成22年度～25年度採択。</li> <li>3. 高桑史子 科学研究費補助金基盤研究C「過疎高齢海村・山村における村落解体阻止と脆弱性克服に関する社会人類学的研究」、研究代表者、平成23年度～25年度採択。</li> <li>4. 篠田粧子 挑戦的萌芽研究「鉄欠乏で惹起される小腸粘膜のフェリチン非依存的抗酸化メカニズムの解明」、研究代表者、平成23年度～25年度採択。</li> </ol>					
国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高桑史子 首都大学東京 傾斜的研究費（全学分）研究環 研究分担者「カタストロフィと人文学—東日本大震災以後の人間・自然・文明」（研究代表 西山雄二）（平成24年度）</li> </ul>					
その他社会貢献 [公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]					
<ul style="list-style-type: none"> <li>・高桑史子 2012年11月29日 特定非営利活動法人パルシックで講演「スリランカ南部 津波後と内戦後の漁村」</li> </ul>					
研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況					
工業所有権の名称	発明者	権利者	工業所有権の種類・番号	出願年月日	取得年月日
研究分担額					
研究代表者・分担者名	所属			金額（円）	